

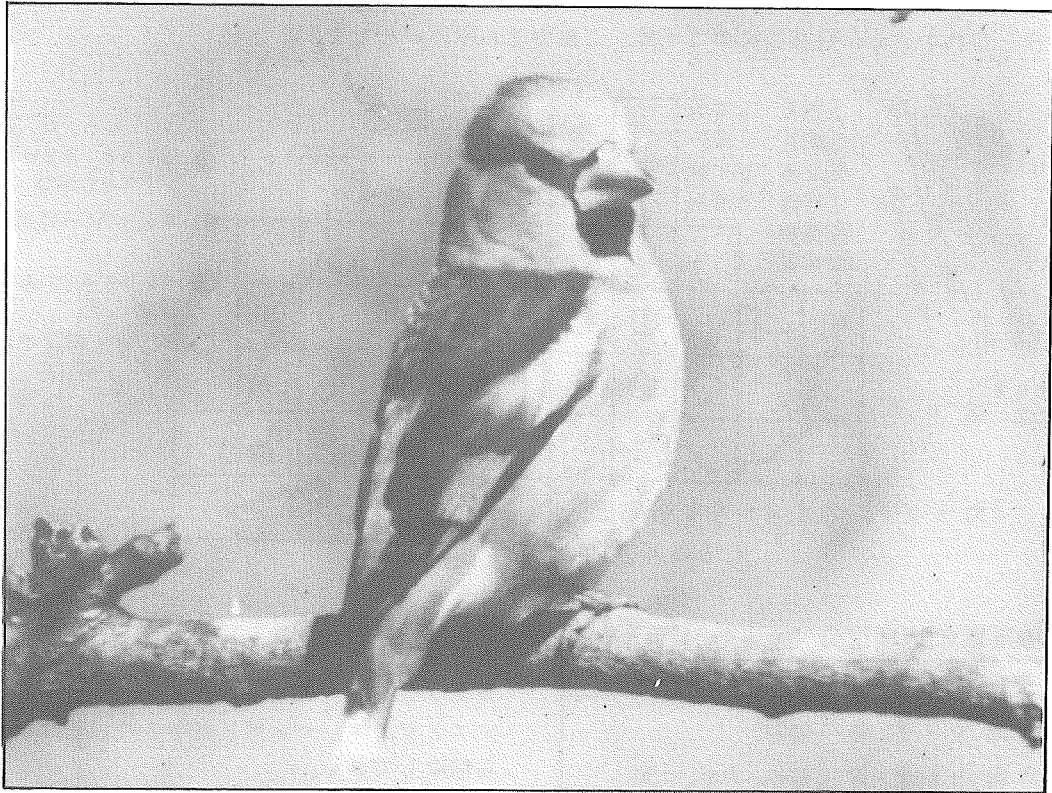


1985・12

第 19 号

# しろこぼと

日本野鳥の会 埼玉県支部



シメ(アトリ科) キチッ、キチッという鳴き方を耳にすると、なぜか、身の引き締まる思いがする。さすがに冬鳥だ。以前、川田谷の探鳥コースで必ず、決った所の決った時刻に出現してくれたのだが、近ごろはさっぱり。地味ではあるが、多色模様がインコに似ているためか、ひょっとしたら、「愛鳥家(?)」にカゴの鳥にされてしまったか、と気遣っているところ。高い枯木のこずえに止って、太いくちばしとくりくりの目で愛敬をふりまく姿に、あそこでもた、会いたい。

(写真・松田 喬、文・長野博行)

# 埼玉の鳥相 — 1985年夏鳥分布調査報告 —

## 日本野鳥の会埼玉県支部研究部

本年5月10日から7月10日に渡って行われた、県内野鳥分布調査は、会員諸氏のご協力を得、一般の方々を含め75人の報告が寄せられました。その内訳は、調査はがき46枚、調査票198枚。1Km×1Kmのメッシュで、県内215メッシュが調査され、地域別(表①)の種別生息状況(表②)、注目種のおオヨシキリとカッコウの分布(図①)が得られました。

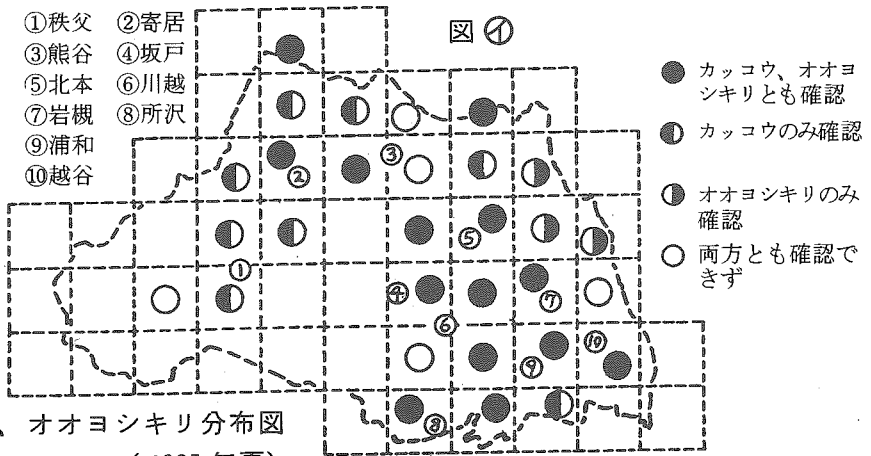


▲探鳥会も生息状況把握の一環

県内野鳥分布調査は引き続き、12月から1月の冬鳥、5月から7月の夏鳥と、年2回ずつ行い、鳥を通して県内の自然環境について調査していきたいと考えております。今回同様、これからも、会員諸氏のご理解、ご協力をお願いいたします。



カット  
比企 裕



カッコウ、オオヨシキリ分布図  
(1985年夏)

### 埼玉県の地域区分

表①

地域	地形区分	おもな都市名
県南東	平野	越谷
県南中	平野	浦和、大宮、上尾
県南西	平野	川越、所沢
県央・東	平野	鴻巣、久喜、加須、栗橋
県北	平野	熊谷、深谷、本庄
県西	丘陵	寄居、皆野
秩父	山地	秩父山地

注1) 紙面の都合上、全地域に生息しているコジュケイ、キジバト、ツバメ、ヒヨドリ、カラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシボトガラス、ハシボソガラスの10種は表から削除してある。

注2) トビ以外のワシ・タカ類は保護のため削除してある。

注3) 日本で繁殖しないシギ・チドリ類等は削除してある。

注4) 本調査は繁殖調査でないため、期間中に国内繁殖種であれば明らかに通過であっても示してある。

県内の地域別種別生息状況 表②

種名	地域	県南東	県南中	県南西	県央・東	県北	県西	秩父
カイツブリ		○	○	○	○	○	○	
カワウ		○	○					
ヨシゴイ		○	○					
ミゾゴイ								○
ゴイサギ		○	○	○	○	○	○	
ササゴイ			○	○	○	○	○	
アマサギ		○	○	○	○	○	○	
ダイサギ			○	○	○	○		
チュウサギ		○	○	○	○		○	
コサギ		○	○	○	○	○	○	
アオサギ			○		○	○		
カルガモ		○	○	○	○	○	○	
トビ			○	○		○		
ウズラ			○					
ヤマドリ								○
キジ			○	○	○	○	○	○
ヒクイナ			○		○			
バン		○	○		○			
コチドリ		○	○	○	○	○	○	
イカルチドリ			○	○		○	○	
シロチドリ					○	○		
イソシギ			○		○	○		
オオジシギ				○				
ツバメチドリ					○			
コアジサシ			○		○	○		
シラコバト		○	○		○	○		
アオバト					○			○
ジュウイチ								○
ツツドリ			○			○	○	○
ホトトギス			○	○			○	○
コノハズク								○
アオバズク			○			○		○
フクロウ								○
ヨタカ			○				○	○
ヒメアマツバメ				○				
アマツバメ					○		○	
ヤマセミ						○	○	
アカショウビン								○
カワセミ			○	○	○	○	○	○
ブッポウソウ								○
アオゲラ				○			○	○
アカゲラ				○				○
コゲラ			○	○	○		○	○
ヒバリ		○	○	○	○	○	○	

コシアカツバメ			○					○
イワツバメ							○	○
キセキレイ							○	○
ハクセキレイ		○					○	○
セグロセキレイ							○	○
サンショウクイ							○	
モズ		○	○				○	○
アカモズ								○
カワガラス								○
ミソサザイ								○
イワヒバリ								○
カヤクグリ								○
コマドリ								○
コルリ								○
ノビタキ							○	
イソヒヨドリ							○	
マミジロ								○
トラツグミ							○	○
クロツグミ								○
アカハラ							○	
ヤブサメ								○
ウグイス							○	○
コヨシキリ							○	
メボソムシクイ								○
センダイムシクイ							○	○
キクイタダキ								○
セッカ		○	○				○	○
キビタキ								○
オオルリ								○
コサメビタキ							○	○
サンコウチョウ							○	○
エナガ								○
コガラ								○
ヒガラ								○
ヤマガラ							○	○
シジュウカラ							○	○
ゴジュウカラ							○	○
キビシリ								○
メジロ							○	○
ホオジロ							○	○
アオジ							○	○
マヒワ							○	
ウソ								○
イカル							○	○
コムクドリ							○	
カケス								○
ホンガラス								○

# 第1回野鳥の旅(伊良湖ツアー)に参加して

鈴木忠雄(熊谷市)

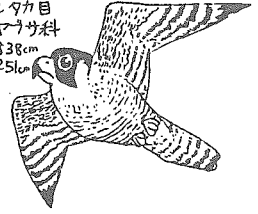
10月8日～10日に、初めての野鳥の旅が行われました。遠く新潟の方や、群馬県太田市の方も参加され、総勢14人で8日、熊谷を午後9時半ごろ出発。2座席に1人という、ゆったりとした豪華版でした。

9日早朝、伊良湖恋路ヶ浜に着きました。車から降りるや、辺りには、野鳥キチがいっぱい。小生は、テレビ局の人に捕まり、インタビューを受けました。「何処からですか」「埼玉からです」「初めてですか」「いいえ、5、6回目です」「鷹のどこにひかれて来ましたか」「伊良湖の鷹の渡りにはロマンがある、と言われていますが、そのとおりだと思います。何千キロも離れた南へ渡って行く、その勇壮な姿には心打たれますね、そういう点にひかれて来たんです」——インタビューが終り、ホッとしました。

次いで、朝日を浴び、輪を描き、いつの間にか輪を解き、気流に乗って帆翔して行くサンバを観察し続けました。ハチクマやツミも混じっていたので、鑑別には、ちょうど良い

ハヤブサ

ツシタカ目  
ハヤブサ科  
全長38cm  
♀55cm



チャンスでした。

しばらくして、反対側の海辺へ出て鶉(ひよどり)の

渡りを見ました。何千何万のヒヨは、上空から一気に海面スレスレに出て、紀伊半島を目指して渡って行きますが、面白いことに、何が気にいらぬのか、途中でことごとく引返してしまうグループもありました。

その他、虎視眈々とヒヨを狙うハヤブサや、けなげにも海を渡るという、蝶のアサギマダラも観察することができて、文字通りの楽しい有意義な、思い出深い探鳥会でした。

翌日は、地元名産のメロンをひとつずつ抱え、豊川稲荷に寄ってキシメンを土産に、帰路につきました。

今回の企画に、一方ならぬお骨折りを下さった石井さんに感謝いたします。

輪を作り 輪を解き渡る 鷹の群れ  
鷹の雲 澎湃として 湧く伊良湖

## 鐘撞堂山行

——タカ類の渡り情報——

石井生高(寄居町)

今年は、雨と曇りの日が多く、鐘撞堂山に登った日も少なく、例年より集計羽数が少なくなりました。10月3日は、素晴らしい秋晴れだったので、午前7時には山に登っていたのに、残念ながら、地付きと思われるチョウゲンボウだけでした。ワシ・タカ類は、曇りでも、渡っていくのかも知れませんね。

9月21日(●→◎) サンバ3

22日～24日(●→◎) 0

25日(◎) ハヤブサ1

26日(①) トビ1、ハチクマ3、ノスリ1、ツミ1、サンバ22

27日(◎) ハチクマ1、サンバ2、ツミ1

29日(●) 0

30日(①) サンバ34、ハイタカ2、

トビ2、ハチクマ1、

チョウゲンボウ1

10月1日(◎) サンバ2、

チョウゲンボウ1

2日(①) ハチクマ1、

チョウゲンボウ2、サンバ8、トビ2

3日(○) チョウゲンボウ2

4日(◎) チョウゲンボウ1、オオタカ1、サンバ1

5日(◎→小●) 0

★サンバ=72羽、ハヤブサ=1羽、トビ=5羽、ハチクマ=6羽、ノスリ=1羽、ツミ=2羽、ハイタカ=2羽、チョウゲンボウ=7羽、オオタカ=1羽(計97羽)

(編集部注・石井さんは、10月6日、NHKのワシタカの渡りレポートに出場しました)

サンバ



ツシタカ目  
ツシタカ科  
全長50cm

# 野鳥情報

- コサギ ◇10月8日、浦和市大谷口の遊水池で脚全体が黄色い個体1羽(近藤 崇)。
- オソドリ ◇10月8日、寄居町の玉淀湖で♂♀各5羽(田村照治)。
- トモエガモ ◇10月12日午後3時、浦和市大谷口の遊水池で♂♀各1羽(海老原美夫)。
- ヨシガモ ◇10月19日午後3時、鶴ヶ島町高倉の池尻池で♂1羽(海老原美夫他4名)。
- オカヨシガモ ◇10月19日午後4時、浦和市大谷口の遊水池で♂1羽(近藤 崇)。
- ヒドリガモ ◇10月7日、桶川西高校近くで1羽(田中昭三郎他1名)。
- オナガガモ ◇10月16日、吉見町の荒川河川敷で♂♀各1羽(長野博行)。
- ホシハジロ ◇10月13日、大宮市の深作沼で1羽(中島康夫・郁夫)。◇10月14日、吉見町の天神沼で♂2羽(場谷内ルミ子他2名)。
- キンクロハジロ ◇10月13日、大宮市の深作沼で♂♀各2羽(中島康夫・郁夫)。◇10月14日、吉見町の天神沼で2羽(場谷内ルミ子他2名)。
- オオタカ ◇10月6日午前11時、北本市荒井の荒川河川敷で若鳥1羽(長野博行)。
- ヒクイナ ◇10月7日、浦和市秋ヶ瀬で鳴き声(福井 亘)。
- ケリ ◇10月6日、大宮市丸ヶ崎の田んぼで1羽(中島康夫)。
- タゲリ ◇10月20日、幸手町上吉羽の中川で6羽(秋間利夫)。
- オジロトウネン ◇10月13日、大宮市の深作沼で3羽(中島康夫・郁夫)。
- クサシギ ◇10月16日、浦和市三室で30羽以上(国益 勝、石川和義)。
- カッコウ ◇10月3日午前8時、浦和市大谷口の西野書店付近で1羽(近藤 崇)。
- ヒメアマツバメ ◇10月8日午前8時、浦和市大谷口で2羽(近藤 崇)。◇10月13日、熊谷市大麻生でアマツバメに混って飛んでいた(海老原美夫)。
- アマツバメ ◇10月7日午後4時30分、浦和市大谷口の武蔵野線上空を3羽(近藤 崇)。
- ◇10月9日午後5時、浦和市岸町の支部事務局上空を1羽(海老原美夫)。
- アオゲラ ◇10月20日午前10時、白岡町の八幡神社で♂1羽(浅田徳次)。
- アカゲラ ◇10月9日、熊谷市大麻生の森で1羽(今井明巨)。◇10月10日午前7時30分、北本市石戸宿の子供公園近くの屋敷林で4羽(田中昭三郎他1名)。◇10月20日、蓮田市の国立東埼玉病院周辺林で1羽(中島郁夫)。
- オオアカゲラ ◇10月28日午前7時35分、寄居町の鐘撞堂山で1羽(石井生高)。
- セグロセキレイ ◇9月中旬から、浦和市の白幡沼で、顔がハクセキレイ様の変異体1羽(海老原美夫)。※各新聞でも既報。
- ムネアカタヒバリ ◇10月13日午後2時30分、浦和市秋ヶ瀬A地区で1羽(石井 智)。
- ヒヨドリ ◇10月8日午前7時50分、浦和市鹿手袋の上空を約60羽の群れが渡る(海老原美夫)。
- ジョウビタキ ◇10月20日、熊谷市大麻生で♂1羽(今井明巨)。
- シマセンニュウ ◇10月20日、浦和市三室で2羽(支部探鳥会)。
- センダイムシクイ ◇10月9日、熊谷市大麻生の森で3羽(今井明巨)。
- キビタキ ◇10月7日午後1時、大宮市日進町で♂♀各1羽(森本國夫)。
- ムギマキ ◇10月20日午前11時、白岡町の八幡神社近くの屋敷林で♂1羽(浅田徳次)。
- サメビタキ ◇10月9日、熊谷市大麻生の森で1羽(今井明巨)。◇同日午前7時、大宮市日進町で1羽(森本國夫)。
- コサメビタキ ◇10月8日午前9時、大宮市日進町で1羽(森本國夫)。
- カシラダカ ◇10月20日、蓮田市の国立東埼玉病院周辺林で1羽(中島郁夫)。
- アオジ ◇10月15日正午、大宮市日進町で1羽(森本國夫)。
- シメ ◇10月20日早朝、北本市の農事試験場跡地で1羽(田中昭三郎他1名)。
- カケス ◇10月9日、熊谷市大麻生の森で4羽(今井明巨)。



野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。  
受付は探鳥会当日です。予約申込みは必要

ありません。

筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡（なくても大丈夫）などをご用意ください。小雨決行です。

参加費は、一般＝100円、会員と中学生以下＝50円

12月1日(日) 寄居町 鐘撞堂山と玉淀湖  
午前9時寄居駅北口集合(交通は11月3日と同じ)。午後2時ごろ解散。山でオオタカとノスリ、湖でオンドリとヤマセミにお会いし、ミソサザイを探そう。(担当＝田村照治、石井生高、小淵健二)

12月8日(日) 熊谷市 大麻生(定例)  
午前9時30分大麻生駅前集合(交通は前回と同じ)。午後1時ごろ解散。シメ、アオジ、カモの群れで冬本番。アカゲラも見る。(担当＝鈴木忠雄、堀越照雄、今井明巨)

12月15日(日) 浦和市 三室地区(浦和市立郷土博物館共催・定例)  
午前8時15分北浦和駅東口または午前9時郷土博物館前に集合(交通は前回と同じ)。午後1時ごろ解散。クサシギ、タシギ、ジョウビタキ、ツグミなど、冬季、ふつうに見られる野鳥をじっくり観察。(担当＝楠見邦博、森本國夫、福井恒人)

12月22日(日) 浦和市野田 鷺山記念公園(シラサギ記念博物館共催)  
午前9時15分鷺山記念公園集合(国際興業バス大宮駅東口7番線＝中野田折返し所行

き8:41→上野田下車/浦和駅西口1番線8:55→同公園)。午後1時ごろ解散。タゲリ、ノスリを期待。(担当＝海老原美夫、松井昭吾、中島康夫)

12月23日(月) 大井野鳥公園  
午前9時品川駅港南口改札前集合。バスで現地へ。午後1時ごろ解散。クイナ、セイタカシギ、チュウヒ、カモの群れで、忘年探鳥会。(担当＝佐々木勉、草間和子)

61年1月3日 東京都北区浮間公園(荒川) —ホロ酔い迎春探鳥会— 午前9時30分埼京線浮間舟渡駅前集合。キンクロハジロ、ホシハジロ、チョウゲンボウ、カワウ。

1月5日(日) 吉見百穴周辺 午前9時東松山駅または午前9時吉見百穴前に集合。タゲリ、カモ類、キセキレイ、カワセミ。

1月11日(土) 行徳野鳥観察舎 午前8時15分武蔵野線南浦和下りホーム中央付近集合。スズガモ、セイタカシギ、チュウヒ。

1月12日(日) 大麻生地区 前回に同じ。

1月19日(日) 三室地区 前回に同じ。

1月26日(日) 久喜菖蒲公園 午前10時現地集合。8,000羽以上のカモ類。

## 探鳥ツアー(夜行日帰り)＝第3弾＝ 銚子港でカモメと海鳥を

1961年1月25日(土夜)～26日(日)

黒生海岸で、日の出にウミウとカモ類の飛び立ちで眠気をさまし、暖かいバスの中で温いお茶を飲みながら、朝食。その後、地元の繁倉 崇先生の案内で、6～8種のカモメ類の勉強(ゾウゲカモメの出現した所です)をし、シノリガモの群れとメリケンキアシシギを観察。さらに、魚市場で、新鮮な海の幸のショッピング。帰路、小見川でオオセッカを

探す— という、欲張り探鳥ツアーです。

集合 東武伊勢崎線・太田駅前—高崎線・熊谷駅前—池袋・三越前。

費用 6,000円(中学生以下4,000円で、補助席、保護者同伴)。

定員 先着25人。

申込 往復はがきに、住所・氏名(フリガナ)・年齢・性別・電話番号・返信あて先を明記し、石井生高( )まで。または、郵便振替で、日本野鳥の会埼玉県支部普及部に6,000円を振込んでください。

※申込者には後日、案内書などを送ります。



9月29日(日) 寄居町 鐘撞堂山

雨天のため中止。

10月9~10日(水、木祝) 伊良湖岬と汐川ツアー

人 14人 天気 晴 鳥 カイツブリ オオミズナギドリ ウミウ ヒメウ ゴイサギ アマサギ ダイサギ チュウサギ コサギ クロサギ コクガン マガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ スズガモ クロガモ ハチクマ トビ ツミ ノスリ サシバ ハヤブサ コチュウゲンボウ コジュケイ コチドリ シロチドリ ムナグロケリ トウネン ウズランギ タカブツギ イソツギ ツバメチドリ カモメ ウミネコ アジサンキジバト ハリオアマツバメ アマツバメ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ノビタキ イソヒヨドリ ウグイス セッカ キビタキ サメビタキ エゾビタキ メジロ ホオジロ カワラヒワ コムクドリ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス(64種)すばらしい天気にも恵まれた9日、ワシ・タカの渡り3,500羽と名城大学グループの報告。ヒヨドリの渡りは数万羽。ただただ、感激。

10月10日(木、祝)北川辺町 渡良瀬遊水池(栃木県支部と合同) 人 74人(県支部 人) 天気

曇時々晴 鳥 カイツブリ アマサギ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミサゴ トビ チュウヒ チョウゲンボウ オオバン イソツギ シラコバト キジバト アオゲラ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ セッカ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス(36種)チュウヒが何度も勇姿を現わし、ショウドウツバメの群れが上空を飛び、カモたちが水面に。渡良瀬は、広いノ

10月13日(日) 熊谷市 大麻生

人 40人 天気 晴 鳥 ゴイサギ ダイサギ コサギ カルガモ チョウゲンボウ コジュケイ キジ イカルチドリ イソツギ タシギ キジバト カワセミ アカゲラ ヒバリ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ センダイムシタイ セッカ サメビ

タキ エゾビタキ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(30種)旅の途中の夏鳥が見られたが、カケスの声やアカゲラのドラミングが森に響いて、秋の深まりを感じさせた。

10月20日(日) 浦和市 三室地区

人 61人 天気 曇 鳥 チュウサギ コサギ カルガモ チョウゲンボウ コチドリ タカブツギ イソツギ タシギ ユリカモメ シラコバト キジバト アマツバメ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シマセンニュウ キビタキ ヤマガラ シジュウカラ メジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(31種)愛敬を振りまくヤマガラや、次々と通過してゆくカケスなどが印象的。

10月27日(日) 新座市 平林寺と周辺の雑木林

人 35人 天気 晴 鳥 ノスリ キジバト アカゲラ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ マミチャジナイ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ スズメ ムクドリ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(19種)開始早々にマミチャジナイの♀。ゆっくり見られた。ノスリが2羽青空に舞って、雑木林は秋。

10月28日(日) 大井野鳥公園

人 12人 天気 晴 鳥 カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ キンクロハジロ トビ チョウゲンボウ バン オオバン シロチドリ ハマシギ コアオアシギ タシギ ユリカモメ セグロカモメ ウミネコ キジバト ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シジュウカラ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシブトガラス(35種)鳥合わせのとき、観察舎ののぞき窓に現われたジョウビタキ君が、“窓の向うに人がいた”。

11月3日(日) 寄居町 鉢形城跡と荒川

人 33人 天気 晴 鳥 コサギ トビ コジュケイ イカルチドリ イソツギ キジバト カワセミ アオゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ウグイス キビタキ エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ イカル スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(29種)鳥合わせの最中にキビタキの♀が現われた。南の国に無事渡れるのかと心配。

## 連絡帳

### 冬鳥分布調査にご協力を

埼玉県内の野鳥の越冬状態を明らかにすることを目的として、夏鳥分布調査と同様の要領で行います。調査期間は、12月1日～来年1月31日で、調査方法は、①同封のハガキによるもの、②メッシュ地図と調査票によるもの、の2通りです。①の場合、後で調査票に転記してデータ整理を行いますので、地名等について地図上でわかりやすいようにご記入ください。②の調査もむずかしいものではありません。ご希望の方には、調査用の地図などの資料をお送りしますので、調査地を本支部の研究部までお知らせください。

鳥の種類が少なくても貴重なデータになります。お気軽に情報をお寄せください。

### 岩本久則さんと一緒に（室内会）

—12月15日午後2時～5時—

場 所 正直屋北浦和店（北浦和駅東口から徒歩1分）

＜第1部＞ 久則さんのお話（午後2時～3時30分） ※参加費＝探鳥会費と同じ。

＜第2部＞ 忘年会（午後3時30分～5時） ※参加費＝3,000円。

※オークションも予定しています。

※第2部への参加希望者は、12月5日までに支部事務局☎0488(32)4062へご連絡ください。

### 会員数は

11月20日現在、625人です。

題字『しらこぼと』：日本野鳥の会会長・山下静一

（イラスト風見出し・鷹尾正済）

『しらこぼと』

1985年12月号（第19号）  
発行人 今井昌彦

頒価100円（会費に含まれます）  
発行所 日本野鳥の会埼玉支部

発行所事務局 〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号  
電話 0488(32)4062

郵便振替 東京9-121130 銀行振込口座 埼玉銀行浦和支店普通預金316990  
印刷所 望月印刷株式会社

## 役員会の報告

11月3日（寄居町） ①事務局と各部の報告、②関東ブロック会議報告、③埼玉銀行パネル展、④1～3月行事、⑤野鳥写真教室、⑥密猟問題、⑦支部事務所問題、⑧その他。次回役員会は、1月12日、熊谷市で。

## 事務局日誌

- 10月4日 狭山市中央児童館から探鳥会指導の依頼。
- 5日 浦和で編集部会（11月2日も）。
- 6日 北本で総務、普及の各部会。
- 12日 浦和で研究部会。
- 14日 本部の総務、研究、事業の各部との打ち合わせと指導委員会への出席（西城戸）。
- 20日 関東ブロック会議に出席（石井、海老原、長野、西城戸）。
- 26日 狭山市の探鳥会の下見（海老原、森本、海老原敬子）。
- 30日 県庁自然保護課へ（海老原）。
- 11月1日 埼玉銀行パネル展の準備。
- 2日 『しらこぼと』発送（事務局）。



今冬、野山を歩いていて、もし、カラ類の混群に出会ったら、姿だけでなく、それぞれが、どういう声をしているか注意して聞いてください。みな似たような鳴き声ですが、声の質や地鳴きなど、それぞれ違いますから。カラ類の聞き分けができるようになれば、夏鳥のくるところ、山に行った時など、今までより面白くなることうけあいです。（藤原寛治）

（無断転載を禁じます）